

平成30(2018)年度における医療事故及びヒヤリ・ハット事例について(岡本台病院)

1 レベル別件数

区分	レベル	内 容	H30(2018)年度件数	H29(2017)年度件数	増 減
ヒヤリ・ハット事例	0	エラー(※1)や医薬品・医療機器の不具合が見られたが、患者には実施されなかった。	258	226	32
	1	患者への実害はなかった(何らかの影響を与えた可能性は否定できない。)	495	661	▲ 166
	2	処置や治療は行わなかった(患者観察の強化、バイタルサイン(※2)の軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた。)	133	125	8
	3a	簡単な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)。	73	56	17
	小 計 (ヒヤリ・ハット事例)(件) ①		959	1,068	▲ 109
	ヒヤリ・ハット事例の占める割合(%) (①/③×100)		99.6	99.6	▲ 0.0
医療事故	3b	濃厚な処置や治療を要した(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など)。	4	4	0
	4a	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない。	0	0	0
	4b	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う。	0	0	0
	5	死亡(原疾患の自然経過によるものを除く。)	0	0	0
	小 計 (医療事故)(件) ②		4	4	0
	医療事故の占める割合(%) (②/③×100)		0.4	0.4	0.0
合 計(医療事故及びヒヤリ・ハット事例)(件) ③			963	1,072	▲ 109

※1 ある行為が、行為者自身が意図したものでない場合、規則に照らして望ましくない場合、第三者からみて望ましくない場合、客観的期待水準を満足しない場合などに、その行為を「エラー」という。

※2 血圧、脈拍、呼吸など

2 事象別件数

事 象	内 容	H30(2018)年度件数	H29(2017)年度件数	増 減
薬 剤	注射、点滴、内服薬など	201	183	18
輸 血	血液検査、輸血など	0	0	0
治療・処置	手術、麻酔、処置など	17	22	▲ 5
医療機器	医療機器など	0	4	▲ 4
ドレーン、チューブ類	チューブ、カテーテルなど	6	7	▲ 1
検 査	採血、撮影など	18	17	1
療養上の世話	転倒、転落、給食、栄養など	536	621	▲ 85
そ の 他		185	218	▲ 33
計(件)		963	1,072	▲ 109

((公財)日本医療機能評価機構による分類に準じる)

3 代表的事例及び対応策

No.	事象	代表的事例	対応策
1	【レベル3a】 療養上の世話 (転倒)	自室内歩行中にふらついて転倒し、ドアに前額部～両眉上部をぶつけた。 右眼瞼上部に長さ2cm程度の裂傷を認めた。 スキンステプラー3針使用にて縫合した。	①異食行為もある患者であったため、異食行為のリスクが下がった段階でドア内側・壁に保護材が貼用してある病室へ移動した。 ②壁に殴打する事象は改善したが、床に転倒する事象がみられたため、床に保護材を貼り環境面の整備を行った。 ③床の保護材を自らはせず行為がみられたため、床の保護材を二重にした。 ④精神症状の変動や危険行動を評価し保護帽の使用を開始した。
2	【レベル2】 薬剤	新医薬品レキサルティ錠の処方には14日の日数制限があるが、誤って、21日分の処方を払い出した。 処方後に気づき、回収した。	・電子カルテを新医薬品の処方時に新規で入力した際に警告が出るように設定した。 (①医師新規入力時②15日以上処方時に出るように設定した) ・新医薬品が処方された際に最初に日数を確認することとした。 ・外来の各診察室に日数制限がある旨のお知らせを配布し掲示した。